

2025年度 社会福祉法人立正たちばな会における教育及び保育に関する全体的な計画

教育及び保育理念		心と心がここで出会い通い響きあう 大切にしよう「信じる心」 伝えよう「ありがとうの気持ち」 感じよう「つながる幸せ」 みんなが笑顔でいたいから 私たちの保育園は『心の居場所』であり続けます。 一、私たちは、移ろいゆく豊かな自然環境の中で、子どもたちの感性を見つめます。【感】 一、私たちは、笑顔でいられる幸せを感じながら、子どもたちとの関わりを大切にします。【関】 一、私たちは、志高く、大切な仲間と信頼しあい、共に成長していきます。【信】 一、私たちは、ひとりひとりを大切に、子どもたちの生きる力を育みます。【生】 一、私たちは、いつもあなたのそばに寄り添い、支えあい、共に歩みます。【歩】			保育教育の目標		1.身体の丈夫な子ども 2.友だちと仲よくあそび思いやりのある子ども 3.粘り強く最後まで頑張る子ども 4.人とかかわる力、聞く力が育つ子ども			
教育及び保育方針		温かい人間関係のなかで愛情と専門的技術をもって安全と安心のための環境設営に充分意をはらい日常の保育・教育につとめる。			保育教育の方法		(乳児)3才未満児は、個々の成長発達に寄り添いながら保育を行う。 2歳児は後半より、異年齢移行に向けて小グループずつ川西れんげに移る。 (幼児)3才以上児は、個々の生活環境に即したクラス編成を行う。 また、異年齢混合保育で園生活を送る中で、後半より就学に備えて、5才児は10時から15時単独の活動となるが、異年齢の特徴をより子ども達の成長に生かすため、15時以降は異年齢クラスでの生活となる。			
保育・教育の基本原理		保育園の社会的責任		保育・教育の環境		保育・教育の計画及び評価			幼児教育を行う保育園として共有すべき事項	
乳幼児期における保育・教育は、人格形成の基礎を培う重要なものであり、その健全な心身の発達を図ることを目的とし、子どもの最善の利益を考慮しながら園生活を通して、生きる力を育成するものとする。		(人権尊重) 子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して保育を行う。 (個人情報管理・苦情処理等) 児童福祉施設としての役割を自覚し子育て家庭や地域に対し、保育園の役割を果たし地域社会に貢献する		(リボン保育園) 一人ひとりの個性を大切に、子どもの成長に寄り添った5つの空間で成長を見守る。遊びのなかで好奇心をくすぐったり、少し難しいことにチャレンジしたり、少しずつ大きくなっていく過程を感じることでできる空間である。 (川西保育園) 異年齢児の集団を作ることで兄弟姉妹のような関係を経験し、子ども同士のかかりによる自然な発達成長が生まれ豊かな人格形成の基礎が作られる。		(指導の計画) 具体的な計画 ・年間指導計画 ・月案 ・週案 ・日案 (保育教諭・保育士等の自己評価／保育園の自己評価) ・事故チェックリストの実施と危機管理マニュアルの作成 ・障害のある園児の指導や小学校教育への円滑な接続に向けた教育及び保育内容等に配慮する。			1、育みたい資質・能力 ・知識及び技能の基礎 ・思考力、判断力、表現力の基礎 ・学びに向かう力、人間性等ねらい及び内容に基づく保育活動全体によって育む。 2、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性、規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり、生命尊重 ・数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚 ・言葉による伝えあい ・豊かな感性と表現	
養護 (保育者の援助・関わり)	年齢	乳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児			
	生命の保持	(ねらい) 人への基本的信頼感が芽生える。 (内容) 一人ひとりの生活リズムが整うよう配慮される。	(ねらい) 安定した生活の中で、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 (内容) 自分でできることを喜び、身の回りのことを自分でしようとする。	(ねらい) 気候に応じて体調管理をする。 (内容) 生活や遊びの中で自我が育つ。	(ねらい) 運動機能が高まるようにする。 (内容) 基本的な生活習慣が身につく。	(ねらい) 自ら体調の変化に気付く。 (内容) 運動量が増し、活発に活動できるようになる。	(ねらい) 健康に関心を持ち、生活に必要な習慣を身につけられるようにする。 (内容) 病気と予防の関係が分かり、必要な生活習慣や態度を身に付ける。			
	情緒の安定	(ねらい) 保育士からの語りかけやふれあいを通して愛されることを実感し喜びにつなげるようにする。 (内容) 発達過程などを的確に把握し応答的なふれあいや言葉かけを行う。	(ねらい) 保育士への甘えや依存の要求がみられ情緒が安定する。 (内容) スキンシップにより、保育士との関わり心地よさや安心感を得る。	(ねらい) 子どもの気持ちを受容し共感しながら継続的な信頼関係を築いていく。 (内容) 保育士や友達と様々な遊びを楽しむ。	(ねらい) コミュニケーションを通して心の自立を育む。 (内容) 友達や年上のこどもと遊ぶことを楽しむ。	(ねらい) 多様な経験を通し自己肯定感を育み、自信や保育教諭への信頼を獲得できるようにする。 (内容) 生活の仕方が分かり、自分で考えて行動する。	(ねらい) 生活リズムに応じた活動内容の調和を図り休息がとれるようにする。 (内容) 遊びや生活の中で、危険を招く事態がわかり、気を付けて行動する。			
教育 (保育者による発達の援助)	3つの視点 (乳児)	乳児	5領域 (1歳以上3歳未満児)	1歳児	2歳児	5領域 (3歳以上児)	3歳児	4歳児	5歳児	
	健やかに伸び伸びと育つ	(ねらい) 清潔になる事の心地よさを感じる。 (内容) 這う・歩く・くぐるなど活発な運動遊びを取り入れる。	健康	(ねらい) 食事・排せつ・着脱など生活に必要な基本的なことを自分でしようとする気持ちを持つ。 (内容) 歩いたり、走ったりがしっかりと、動物の真似をして飛んだり跳ねたりする。	(ねらい) からだを十分に動かして遊ぶことを楽しむ。 (内容) 生活の中で援助してもらいながら自分で出来たことに喜びを感じる。	健康	(ねらい) 歯磨きを習慣化する。 (内容) 身の回りを清潔にし、生活に必要な活動を自分でしようとする。	(ねらい) 自分の体に関心を持ち、異常を感じたら自分から保育教諭等に知らせる。 (内容) 様々な用具・総合遊具を使って遊ぶ。 音楽に合わせて、歩いたり、飛んだりできる。	(ねらい) 室内外の危険な物や場所・危険な行動を知り気をつけて行動する。 (内容) 色々な運動器具をよく使い、工夫して遊ぶ。	
	身近な人と気持ちに通じ合う	(ねらい) 保育士との良好な関係のもと、自分の思いを受け止めてもらえる安心感のなかで園生活を楽しむ。 (内容) 特定の保育士との関わりにより信頼関係が生まれる。	人間関係	(ねらい) 保育士や友だちに関心を持ち真似をしたりして自ら関わろうとする。 (内容) 身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友達と関わって遊ぶ。	(ねらい) 遊びのイメージを広げ、友達とかかわって遊ぶ楽しさを知る。 (内容) 生活や遊びの中で順番を待つなどの決まりがあることに気づく。	人間関係	(ねらい) 年上の子に手伝ってもらいながら、園生活の過ごし方を知る。 (内容) 友だちと簡単なルールのある遊びをする中でルールを守れる。	(ねらい) 友達と共同で使う物を使い、楽しく遊ぶ経験をしたり、大切に扱うことを知る。 (内容) 年長児の様子を見て真似たり、年少児を遊びに誘ったりする。	(ねらい) 遊びや行動を通して友達を応援したり力を合わせる事の大切さを知る。 (内容) 年下の子に優しく接し、約束事や生活の進め方を伝えいく。	
		身近なものと関わり感性が育つ	(ねらい) 安心できる人的及び物的環境の下で感覚の働きを豊にする。 (内容) 土や水等の素材に触れ全身で感触を楽しみ感性を育む。 音楽にあわせて、歌や踊りを楽しむ。	環境	(ねらい) 自然とふれあう中で好奇心や探求心が生まれてくる。 (内容) 戸外の遊びを通して、草花や虫に興味を持つ。	(ねらい) 移行することに期待をもち、身の回りのことを自分でしようとする意欲を持つ。 (内容) 自分のものと他人のものの区別を知り、共同のもののあることも知る。	環境	(ねらい) 身近な動植物に親しみを持ち世話をすることで生命の尊さに気付く。 (内容) 自分のものと他人のものの区別を知り、共同のもののあることも知る。	(ねらい) 身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり試したりして工夫して遊ぶ。 (内容) 自然物を遊びに取り入れる。	(ねらい) 生活や遊びの中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 (内容) 大きくなったことを意識して行動しようとする。 話し合いながら友達と助け合って遊ぼうとする。
	言葉		(ねらい) 話しかけややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 (内容) してほしいことやほしいものがあると言葉や身振りで伝える。	言葉	(ねらい) 話しかけややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。 (内容) してほしいことやほしいものがあると言葉や身振りで伝える。	(ねらい) 生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ (内容) 友達や保育士に自分の思いを言葉で伝えられるようになる。	言葉	(ねらい) 友だちの話を聞いたり、保育教諭に質問したり、興味を持った言葉によるイメージを楽しむ。 (内容) 親しみを持って日常の挨拶をする。	(ねらい) 保育教諭や友だちとの会話を楽しみ相手に伝えるように話す工夫をする。 (内容) 話しかけや問いかけに対して、適切に答えることができ、簡単な伝言ができる。	(ねらい) 人の話を聞いたり身近な文字に触れたりして言葉への興味をひろげる。 (内容) 見たこと聞いたことを上手に話したり、人の話を聞く。
			表現	(ねらい) 保育士や友だちと遊ぶ中で自分なりのイメージを膨らませ楽しんで遊ぶ。 (内容) 自分の思いを言葉や行動で表現できるようになる。	(ねらい) 自分の思いを言葉や行動で表現できるようになる。 (内容) 保育士や友だちと遊ぶ中で自分なりのイメージを膨らませ楽しんで遊ぶ。	(ねらい) 自分の思いを言葉や行動で表現できるようになる。 (内容) 保育士や友だちと遊ぶ中で自分なりのイメージを膨らませ楽しんで遊ぶ。	表現	(ねらい) いろいろな素材や用具に親しみ、友達と工夫して遊ぶ。 (内容) 様々なものの音、色、形、手触り、動き、味、香に気づき、驚いたり感動したりする。	(ねらい) 音楽に親しみ友だちと歌ったり合奏したりして一つの物を作り上げる楽しさを味わう。 (内容) 身近な生活経験をごとこ遊びに取り入れて遊ぶ楽しさを味わう。	(ねらい) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり演じて遊ぶ楽しさを味わう。 (内容) 色々なものへの想像力、創造性が育つ。
保育をする際の配慮事項		・生活リズムの安定を図り、生理的・依存的欲求を満たし、生命の保持、生活・情緒の安定を図る。 ・保育士に見守られながら過ごす中で、安心して自分の気持ちを表すことができるよう自我の芽生えを大切に育む。 ・安全な環境の中で、全身を使った遊びや探索活動を促す。		・保育士との安定した関わりの中で、生活に必要な身の周りのことを自分でできるよう一人ひとりのペースを尊重しながら、やる気を育てていく。 ・自己主張を促しやりたいことが十分できるよう環境を工夫し、友達と遊ぶ楽しさを伝える。		・基本的生活習慣が身につくよう、できた時は褒めやる気を育てていく。 ・子どもの興味・関心を把握しておき、遊びからたくさん学ぶことができるように配慮する。			・様々な経験を通して、生活に必要な週間や態度が身につくようにする。 ・いろいろな遊びに興味を持ち、保育教諭や友達との関わりが広がるようにする。	
	健康な心と体 (健康)	・保健的で安全な環境づくりをする。 ・一人ひとりの状態に応じて離乳食を開始し楽しい雰囲気の中で食べられるようにする。 ・一人ひとりの発達に合わせて関わり、歩行を促していく。		・苦手な食べ物も少しずつ口にできるように、言葉かけや、関わり方を考慮する。 ・一人ひとりの発達段階を把握して、安全に運動や活動ができるように環境や、関わり方に気を付ける。 ・活動が十分にできる環境での遊びを配慮する。		・一定の時間内に一定量食べれるように、苦手なもののが後に残らないように言葉を掛けて関わりながらペースよく食べれるように促す。 ・排尿・排便をトイレでできるよう励ましながら、できた時は十分褒めて進めていく。			・手・腕・足の力を把握しておき、音楽に合わせてたり、いろいろな総合遊具や用具を使った遊びに誘う。 ・楽しい食事の雰囲気壊さないように苦手な食べ物も少しずつ慣らしていく。	
						・描く・貼る・剥がすなど、指先が自由に動くようになるので、活動に取り組んでいる時は見守り励ます。 ・音楽を聴いて、それに合わせて身体を動かすことができるように促す。			・出来ないこともあきらめなくて取り組めるように方法を知らせて励まし、自信に繋げていく。 ・ルールを併った集団遊びを楽しめるように、一人ひとり理解できるよう話し合う。	

幼児期の終わりまでに 育って欲しい姿 (各年齢で経験・ 体験すべき事項)	自立心 (人間関係)	・言葉をかけながら、一人ひとりゆったりと関わる。 ・言葉をかけたりあやしたりしながら、安心して 過ごせるようにする。	・一人ひとりの興味を持っている遊びを把握して、環境づくりに配慮 する。 ・遊びが十分に組み組めるように気を付け、ケガのないように見守 る。	・自分でできることは手出ししすぎないように見守り ながら、できないことは方法を知らせてできたという 実感が持てるように援助する。 ・言葉で自分の気持ちを表せるように促していく。	・子ども達の興味・関心を把握して、簡単な手伝いが出来るよう 促し、できた時は十分に褒める。	・友達や保育教諭と言葉のやり取りが楽しめるよう関 わりながら、一緒にあそびを楽しめるよう関わる。 ・子どもの気持ちに気づき、言葉で表現できるよう関 わる。	・約束を守って行動することの大切さを知らせる。 ・最後までやり世ことができるようにできないときは方 法を知らせたり、言葉を掛けて励まし、あきらめないで 取り組めるよう関わる。
	協同性 (人間関係)	・語りかけられることにより声を出したり答えよう とする。 ・言葉をかけながら、一人ひとりゆったりと関わ る。	・様々なことでたくさん褒めて、自信を持たせる。 ・友達との関わりを見守りながらも、けがのないようにする。 ・子どもが理解できる言葉かけに配慮する。	・少しの間なら待つことができるよう、理解できる言 葉で知らせながら関わっていく。 ・玩具の貸し借りができるよう言葉を掛けて促す。	・子どもが興味を持てる集団遊びを取り入れて一緒に遊びなが ら、楽しめるように促す。 ・思いやりの気持ちが育つように、友達や年少児にはどんなふう に接すればいいかを気づかせたりしながら見守っていく。	・自分の気持ちだけでなく、相手にも気持ちがあること に気づかせて、関わり方を知らせていく。 ・無理なく行事に参加させて、役割を持って取り組め るよう、気づいて行動ができるように、関わる。	・約束を守り自制して行動することが、自分も周りの人 も気持ちよく過ごせることに気づかせていく。 ・自分の周りにはどんな人があるか、どんなことをした らいけないのかを話し合い気づかせていく。
	道徳性・規範意識の芽生え (人間関係)	・保育士との信頼関係を大切にしながら安心して 過ごせるようにする。 ・たくさん言葉をかけて、十分な関わりを持つ。	・一人ひとりの欲求を把握して、満たしてあげるように、言葉をかけ たり、関わり方を気を付ける。 ・一人ひとりの心の成長に合わせて、いけないことはいけないと しっかりつたえていく。	・言葉や行動の手本を見せたりしながら、子どもと 一緒に遊びを楽しむ。 ・感情の表現の手本を見せたり、一人ひとりの表現 の仕方を十分に理解して認める。	・簡単な約束や決まりがわかり守ることができるように、ルー ルを守らないと、できなかったり、遊べないことを知らせていく。 ・遊んだ後は、片付けをしたら気持ちがいいことに気づかせたり して、進んで取り組めるように促す。	・良い悪いの区別がつくよう、どうしたらいいかを考 えて行動できるように話し合ったりしながら関わる。 ・友達との生活や遊びの中で決まりがあることの大切 さに気付かせていく。	・良い悪いを区別し、考えて行動できるよう、気づい ていないときは、その都度言葉を掛けて知らせたり、話し 合って気づかせていく。
	社会生活との関わり (人間関係・環境)	・保育士との信頼関係を大切にしながら、泣い ている理由を把握して、欲求が満たされるよう に関わる。 ・手遊びや、リズム遊びを考慮して、成長に合 わせた保育内容を考える。	・玩具の使い方を知らせながら、安全に遊びがたのしめるようにす る。 ・無理なく行事に参加できるように、内容など十分考慮して、 楽しく参加できるようにする。	・一人ひとりの欲求に気づいて満たし、安心して生活 ができるようにする。 ・自分の気持ちを言葉や行動で表すことができるよう 促す。 ・自分のものと他人のものとの違いを知らせる。	・無理なく行事に参加して、一緒に楽しんだりしながら、行事の楽 しさを伝えていく。 ・高齢者や地域の人と触れ合う機会を持ち、いろいろな人と親し みを持てるようにする。	・共同のもの・自他のものの区別ができればものを大切に することに気づかせていく。 ・道具や用具を安全につかうことができるよう、危険な 行為に気づかせていく。	・外国人など、自分とは異なる文化をもった様々な人 に関心がもてるようにする。 ・規律ある生活ができるよう、今何をする時なのかを気 づかせて理解して行動ができるよう関わる。
	思考力の芽生え (環境)	・指や手を清潔に保ち、衛生面に気をつけ、安 全や空間づくりを心掛ける。 ・安全面、衛生面に気を付けながら関わる。 ・一人ひとりの発達に合わせて関わる。	・安全な環境を用意し、一緒に遊びを楽しみながら、一人ひとりを見 守る。 ・気の合う友達との関わりを持たせたり、遊びを通して友達と十分 に関わるように言葉を掛けながら促していく。	・一人ひとりの興味・関心を把握し、散歩や戸外遊 びを通して身の回りのものに触れる機会を持つ。 ・指先を使う力がついているか、一人ひとり把握しな がら、集中して遊びに取り組める環境づくりに心が ける。	・身近な公共の施設や交通機関に関心が持てるよう 促す。 ・身近な用具や器具の仕組みについて関心をもてるように、また 保育教諭も質問に答えられるようにしておく。 ・親しい大人がしていることを手伝おうとする気持ちを大切に方 法をしらせながら、できた時はしっかり褒める。	・遊びの中で数に触れる機会を持ち、数の順番がわ かったり、数の対応ができるよう、一緒に関わる。	・自分の意見だけでなく、友達の話もきちんと聞いて、 受け止めて遊ぶことの大切さを知らせ、どう接したら いいか気づかせていく。
	自然との関わり・ 生命尊重 (環境)	・言葉をかけながら関わり、安心して抱かれて いられるようにする。 ・授乳中も優しく言葉をかけながら関わる。 ・月齢に合わせた玩具を用意する。	・健康状態に合わせて、戸外での遊びが十分に楽しめるようにす る。危険がないように安全面に十分気を付ける。	・自然界(光・水・砂・土など)を遊びの中で取り入 れ触れたり関わって遊び、心地よさを感じるようにす る。	・話したり知らせたりして、身近な動植物に関心が持 てるようにし、関わり方や扱い方をしらせながら、見守 る。 ・遊びの中に、子どもが興味を持っている自然物(どんぐり・花・ 石・砂など)を取り入れる。	・身近な動植物に触れる機会を作り、進んで関わろう とするよう促す。 ・季節があることに気づく機会を作り、生活のなかの 違いを知らせ話し合うことができるようにする。	・大きくなったことを意識して行動でしよう、どんな に成長したか話したり、成長したことを褒める。 ・安心して生活できるよう、子どもの気持ちに気づい て関わったり、環境に配慮とする。
	数量や図形、標識や 文字等への関心・感覚 (環境)	・玩具は消毒して衛生面に気を付けて、安全な ものを用意する。 ・一人ひとり興味のある玩具を把握し、安全に 遊ぶことができるように、欲求が満たされるよう にする。	・言葉を掛けながら、片付けを促したり、置き場所を知らせる。 ・おもちゃなどの色、形、数など、言葉を掛けながら違いに気づく よう促していく。	・身近な公園や施設に親しめるよう、ルールを守 って遊ぶことができるよう見守る。 ・遊びの中で、色の違いや、形の違いに気づかせ ながら、言葉を掛けて知らせしていく。	・生活の中で簡単な数や順番が分かるように、気づ かせたり教える。 ・遊びの中で、いろいろなものを集めたり分けたりして楽しめるよ うに、必要なものを把握して、用意しておく。	・子どもの気づきを把握して、標識や文字・記号に興 味・関心が持てるようにする。 ・いろいろなものに形や位置があることを知らせる。	・身近にある文字に興味や関心を持ち、伝える楽し さを味わい、積極的に使用することができるよう子 どもの興味・関心のあるものを把握して関わる。 ・生活の中や遊びの中で、時刻や時間などに興味 が持てるように、言葉を掛けて気づかせていく。
言葉による伝え合い (言葉)	・要求が満たされるように関わる。 ・一人ひとりの様子をきちんと把握する。 ・言葉をかけたり、あやしたりしながら、一人 ひとり十分なかかわりを持つ。 ・十分な関わりを持って、言葉を促していく。	・一人ひとりの言葉の発達の段階を把握して、言葉を掛けなが ら、2語文が出るよう促していく。 ・「かして」「いいいよ」を言葉を掛けて、促していく。 ・してほしいことや困ったことを言葉で話せるよう促していく。	・保育士の言葉を理解して行動できるように、行 動の手本を見せたり、言葉を掛けて気づかせていく。 ・自分の思いを言葉で言えるよう促し、言えた時は 褒めて自信に繋げていく。	・友達や保育教諭などとの会話ややり取りが楽し めるよう関わりを持ち、理解できるように言葉の 使い方に気を付ける。 ・子どもとの会話を大切にして関わり、適切な言 葉を知らせたり気づかせたりする。 ・親しみを持って日常の挨拶ができるよう、手本 を見せる。	・「なぜ、どうして」の問いかけはしっかり聞いて 応じていく。 ・子どもの気持ちを十分に理解して、経験や思い、 考えたことを自分なりに言葉で表現できるようにす る。	・人の話は最後まできちんと聞くことの大切さを 伝える。 ・見たこと聞いたことを上手に話すことができるよ うに、子どもの話はきちんと聞いて、答え、言葉 を促す。	
豊かな感性と表現 (表現)	・安全な環境づくりに心がけ、十分に遊ぶこと ができるようにする。 ・月齢に合った絵本や保育教材を十分に用意 する。 ・発達に合った運動や遊びを考慮して関わる。	・一人ひとりの興味があるものや、苦手なものを把握して、さま ざまな経験ができるよう関わる。 ・一緒に遊ぶ中で、模倣する面白さや楽しさを 知らせ、楽しんで遊ぶことができるように関わる。 ・好きな遊びが楽しめるよう環境づくりや関わり に配慮する。	・安心して自分の気持ちを表現できるよう配慮し、 自己主張できるように言葉を掛けて促していく。 ・童話・絵本・視聴覚教材を取り入れて、イメ ージに広がりを持てるようにする。 ・身近な音の出るものに親しむ機会を持つ。	・様々なものの音、色、形、手触り、動き、味、 香に気づき驚いたり感動したりできるよう、子 どもの気づきを理解しておく。 ・安心して自分の思いが表現できるように、子 どもの思いに気づいて言葉で促していく。	・感じたことを話したり、友達の話聞くことの 楽しさを知らせて、伝え合う楽しさを知らせる。 ・友達の話をはきちんと聞いて一緒に取り組 み、協力する大切さをしらせていく。	・色々なものはの想像力や創造性が育つよう、子 どもの感じていることに気づいて問いかけたり、 話をする。 ・言葉への興味関心が深まるので、使い方に 気を付けて関わる。	

小学校との連携		子どもの健康支援(保健計画参照)		食育の推進(食育計画参照)		環境及び衛生管理並びに安全管理		災害への備え(避難計画参照)	
・ 小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、 幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度 などの基礎を培うようにする。 ・ 認定こども園の教育・保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小 学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の 研究の機会などを設け、「幼児期のおわりまでに育ってほしい姿」共有 して連携を図り、小学校教育との円滑な接続を図る。		年2回嘱託医による内科検診・年1回嘱託歯科医による歯科検診・健康 状態、発育発達状態の定期的、継続的な把握・異常が認められた時の 適切な対応・フツ化物塗布(年長)		1、 健康・安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。 2、 食べ物への感謝の気持ちを育てる。 3、 様々な人々と一緒に食べる楽しさを味わい、愛情と思いやりを育てる。 4、 食べ物に興味・関心を持ってもらう。		(環境・衛生管理) 施設内外の設備、用具の清掃、消毒、安全管理及び自主点検・子ども及び職員の 清潔保持・ボラリエットの導入・オゾンだっしゅ、クリーンホープによる衛生管理・職 員検便・空間清浄機 コロナウイルス感染拡大対策 (安全管理)		毎月避難訓練(火災・地震等)を実施・年1回消防署との連携訓練・防災頭巾導入・年2回の 消防点検・消防署査察・交通教室	

子育て支援		特色のある教育及び保育	
(家庭との連携) 家庭と園とで子どもの様子を連絡ノートに書いたり、送迎時に伝えあい、信頼関係を築き 成長を喜び逢える関係を築く。 (地域との連携) 地域子育て支援センターを開設し子育て公開講座や様々な子育て支援を行うとともに、 各施設においても一時保育・園庭開放・育児相談(随時)を行い地域子育て支援を行う。 保育実習、中高職場体験受け入れ・職業講話を行い人材養成を支援する。母推・食推 委員との連携を図る。	(研修の方針) 体系的・計画的な研修機会を確保するとともに、職員が計画的に研修等に参加し、専門性の向上が図られるようにする。 (施設長の責務) 認定こども園の役割や社会的責任を遂行するために、法令等を厳守し、保育所を取り巻く社会情勢等を踏まえ、専門性向上に努め、保育の質及び職 員の専門性向上のために必要な環境を確保する。 (研修の実施体制) 園内研修(公開保育)・園外研修への計画的参加・職員会における研修	(特色のある教育及び保育) 異年齢縦割り・体育教室・英会話教室・花育・足育小学校就学を意識した子どもの心を育てるカリキュラムや行事(ひまわりの会)・太鼓(つながり隊) (その他) 川西地域だけでなく岩国市内各地の行事へ積極的に参加するとともに各種行事に地域住民や関係者を招待して交流を図る	